

令和2年1月24日

地域密着型サービス運営推進会議報告書兼議事要旨

厚生労働省令第34号（平成18年3月14日）第108条の規定に基づき、令和2年1月20日に運営推進会議を開催したので、その記録を作成し、これを公表します。

千葉県長生郡白子町幸治3079番地3

設置主体) 株式会社 相生

代表者) 代表取締役 萩原 将之

事業所及び事業主体の概要

【事業所】 ゆうなぎ九十九里

(認知症対応型共同生活介護 通称：グループホーム)

(介護保険事業所番号) 1275900213

(所在地) 〒283-0102 千葉県山武郡九十九里町小関2316番地1

電話0475(70)7333 FAX0475(70)7335

(開設年月日及び共同生活住戸と利用定員)

平成17年10月 1日開設、利用定員9人(一番館)

平成23年 4月 1日開設、利用定員9人(二番館)

【事業主体】

〒299-4216 千葉県長生郡白子町幸治3079番地3

(商号) 株式会社 相生 (かぶしきがいしゃそうせい)

(代表者) 代表取締役 萩原 将之

電話0475(36)5711 FAX0475(36)5712

運営推進会議の概要

日 時：令和2年1月20日 13時30分から14時30分

会 場：当ホーム二番館のリビングダイニング

出席者：運営推進会議の構成

当ホーム

- ・設置主体) 株式会社相生 代表者) 代表取締役 萩原 将之
- ・計画作成担当者 内山 貴司 (二番館担当、介護支援専門員)

委員

- ・ 地 域 住 民 1名 (近隣の住民)
- ・ ちどりの会 (ボランティア団体) 1名
- ・ 当町健康福祉課職員 1名

(議題)

1. 入居者情報 (保険者、要介護度等)
2. ゆうなぎかわら版の内容について (12月号、1月号)
3. インフルエンザ等の感染症に対する予防について
4. その他

(議事要旨)

前回の運営推進会議(11月18日)から今日までの施設や入居者の様子について、『ゆうなぎかわら版12月号、1月号』をもとに解説を行う。ほか、統計資料を配布して、入居者の要介護度別の人数、性別、年齢、入居前に住んでいた市町村(保険者)について説明する。

1. 入居者情報

① 保険者等

内山) 当町を保険者とする入居者の1名が、1月6日からゆうなぎ白子に転居をしている。そのため、前回の会議の時点よりも1名減少。合計13名となった。茂原市、大網白里市、長生郡白子町を保険者とする入居者については、変動はない。

② 要介護度等

内山) 要介護度別では、要介護度4の方が5名と最も多い。また介護保険更新認定を受け、要支援2から要介護2となった方がいる。シルバーカーを使用して歩行をされており、居室からの移動の際や共有スペース内での移動の際には、見守りが必要となる。それらの理由から要介護2という判定がでたものと考えられる。身体機能が低下したわけではなく、以前よりも食欲もあり、活動的になってきたといえる。

萩原) 『利用者年齢層×要介護度』の資料をみると、要介護4の方が5名、要介護3の方が4名で合計9名と過半数を占めている状態である。

2. ゆうなぎかわら版の内容について

12月号1と月号について説明をする。

内山) 12月号では、両館の入居者の日々の様子を撮影したものを掲載。冒頭では、帰宅願望等に関するエピソードについて記載。1月号では、12月に開催したクリスマス会の様子をメインとして掲載。冒頭では、クリスマス会のことと、インフルエンザ等の感染症の予防対策について、記載。

3. インフルエンザ等の感染症に対する予防について

内山) 例年、1月下旬から2月上旬にインフルエンザを発症する入居者、職員が多い。室内・共有スペースの換気等を徹底し予防に努めている状態である。今現在、インフルエンザと診断されている入居者・職員はいない。

萩原) 昨年は1月25日頃から2月初旬にかけて、インフルエンザを発症する入居者、職員がおり、10日間程で収束している。

委員) 入居者が外に出ていなくても、インフルエンザになったのか。

内山) 症状はみられている。

委員) 職員から入居者に感染したということか。

萩原) 私は電車通勤のため、外からインフルエンザを持ってきてしまう可能性が大きいといえる。また職員の場合、小中学生の親である者も多く、学校でインフルエンザが流行、子らを経由して感染が広がることも考えられるのではないと思う。インフルエンザウイルスは空気よりも重く80センチから2メートル程しか浮遊できないとされ、内山が説明したように換気も予防に有効であるといえる。手洗い・うがいの徹底も重要である。

内山) インフルエンザの症状がみられた際には、状態が落ち着くまで居室で過ごして頂いている。職員については、両館への出入りを必要最低限度にするように申し送りをしている。職員の身体にウイルスが付着し、運ばれるリスクを軽減することが目的である。

委員) 一番館と二番館で、発症の人数に違い等はあるのか。

萩原) 特に差異はみられていない。

4. その他

① ゆうなぎ白子に転居した入居者について

萩原) 1月6日から転居をして、生活をされている。アルツハイマー型認知症ではなく、脳血管疾患を由来とする認知症を患っている。本人は他入居者や職員と関わることを拒み、1日の時間を居室内で生活をされることを好む。その時の気分によって食事を食べない、服薬をしない等の行為もみられた。沖縄の出身であり、「帰りたい」という訴えや職員に対する不満等は、以前から聞かれていた。転居の主な理由は、職員との相性の問題であると考えている。ただ本人にも粗暴な面があり、例えばテレビ等を観るのに夢中になっているところに職員が声をかけても、内容を十分に聞いておらず、職員を手で払いのけるような仕草をされるときがあった。仮にその手が職員顔等にぶつかった場合、本人にそのつもりはなくとも、職員は殴られたと思いきみ、委縮してしまうのではないか。その様子がさらに不信感に繋がったのではないか、とも考えられる。もっとしっかりと本人と向き会うことができているならば、結果は変わっていたかもしれない。双方にとって残念な結果となった。なお白子へ転居はしているが、住民票等は当町のままである。

委員) その入居者は、ゆうなぎ白子へ来たことがあるのか。

萩原) ある。コミック等も置いてあるため、それらを自由に読める環境に魅力を感じた部分もあるかもしれない。

② 外部評価について

萩原) 本日の10時から13時過ぎまで外部評価のために、評価機関の調査員によるヒアリングがあった。これらの結果は役場等でも閲覧できる。運営推進会議を2ヶ月に1度定期的を開催していると、この外部評価の実施は1年おきの実施となるため、去年は実施していない。これら以外に運営推進会議の目的のひとつは、施設の密室化を防ぎ、地域に施設として協力できることはないか等を考え、様々な意見を聞くことができる機会であると考えている。外部評価の結果については、次回の運営推進会議の際に報告したい。

最後に、次回の運営推進会議を3月23日(月)、13時30分からと決し、散会した。

以上

本件のお問合せ先

グループホーム ゆうなぎ九十九里

内山 貴司

電話 0475-70-7333